

自分を好きになること から始まります。

子どもたちの自尊感情を育むことが
人権意識を高める基盤となります。

子どもの幸せのために



自尊感情とは...

自分自身をかけがえのない存在として認め、
自分自身を好きだと思ふ気持ちのこと。



子どもに自信を
もたせる
ことが大切です。

自尊感情を育むために家庭でできること

子どもをほめよう!

子どもの話を
聞こう!

いろいろな経験を
させよう!



人とくらべない
ようにしよう!

県教育委員会作成パンフレット「みんな主人公なんだ」より抜粋

この作文は、作者の高岡弥生さんが長岡小学校6年生の昨年、高知県教育委員会主催の「人権の主張発表会」で意見発表作品として選ばれ、また今年度、県主催の「部落差別をなくする運動強調週間」の意見発表作品にも選ばれたものです。7月10日には県民文化ホールで意見発表が行われ、その模様は9月23日にテレビ高知で放送されました。

「勇気こそ勝利」
新聞にも載ったこの言葉は、Yさんの生き方そのものを表しています。

私たちは学校の授業で、B神社の神主をされているYさんにお話を聞きに行きました。お話の中で、まず心に残ったことは、その神社が建てられた理由です。

それは、A地区が差別されていたことにあるのです。

昔、そこに住む人たちは、神社の氏子にしてみらえませんでした。そればかりか、神社にお参りに行くことやお祭りに参加することも許されなかつたのだそうです。そのため、自分たちの手で、神社を建てることにしたのです。A地区の人たちの心より所として、一六五〇年にB神社はできました。



日章小学校 6年生
岡田梨佐さん

一九九八年には、古くなつた社殿を建て直さなければならなくなりまして。そのとき、多くの人が寄付をしました。地区の大工さんも、費用を安くしてくれたそうです。そのようなことから、江戸時代から現在にいたるまで、B神社が地域の人々によって大切に守り続けられていることが分かります。

私は、A地区の人たちは、行動力があり、たくましいと思います。それと同時に、なぜ、A地区の人たちが差別を受けなければならぬのかを考えました。

それに差別は、江戸時代の昔のことではないのです。私たちがお話を聞いたYさんも、また差別を受けていたのです。それは、Yさんが、結婚するときのことです。

結婚相手の家に行ったとき、

「A地区の人には、娘はやらん」と言われました。

Yさんは、その差別に負けずに、「それは、おかしい」と、はっきりと言ったそうです。けれど、なかなか分かりませんでした。A地区の人は、生活が安定してないき、「環境が悪いき」などと言われました。

それでも、Yさんは、勇気を持って説得をしました。そして、相手の家の人にもきちんと分かってもらったのです。新聞にも「勇気こそ勝利」と紹介されました。

私は、本当にYさんは強いなと思いました。勇気があるから、差別に負けなかったのだと思います。

私は勇気を出して、

「勇気こそ勝利」

鳶ヶ池中学校 1年生 高岡 弥生さん

それは間違っている」と言ったことが少ないのです。

障害のある人を見て笑っている人がいます。私は、「それは、間違っている」とは言えませんでした。

友だちがそんなことをしているときには、いつしよに笑ってしまったこともあります。友だちに嫌われるのがいや、という気持ちに負けていたのだと思います。

私よりテストの点が悪かったり、作業がおそかったりする人を、自分より下のように見ってしまったこともありま

す。

それに、私は逆の立場だったこともありま

す。

私はメガネをかけているので、からかわれたことがあります。とても傷つきました。だから、私は両方の気持ち

ちがわかります。だからこそ、差別をなくしたいし、自分も差別をしないようにしたいのです。

私は、低学年のころから、何度も差別や偏見について学習してきました。でも、もしかしたら、私は一度も真剣に

考えてこなかったのかもかもしれません。自分の言動を振り返ってみると、反省することばかりだからです。けれど、今回の学習を、Yさんと出会ったことを無駄にたくありません。Yさんのお話と自分自身の体験とを重ねてみて、共通することを見つけました。

それは、差別をされている人は、何も悪いことをしていないということです。A地区に生まれたことも、障害があることも、メガネをかけていることも全然悪いことではありません。それに、B神社を守り続けてきたA地区の人たち、差別に負けなかったYさんに「勇気こそ勝利」という生き方を学びました。

今、私は「勇気こそ勝利」という生き方には、まだまだ遠いところにいます。

勇気が出なくて、いけないことを「いけない」と言えないことがあります。特に自分一人のときは、心細くて正しいと思うことも、はっきりと言えなくなってしまうのです。だから、まず、信頼できる友だちを一人でも多くつくりたいです。一人ではできないことも、支え合う仲間がいれば、のり越えられると思うからです。



国府小学校 1年生
かたたくにはる君

それには、まず私自身が変わらなければなりません。今の私は、自分が悪いのに人のせいにしてたり、自分の間違いを素直に認められなかったりすることがあるからです。

私が変わっていくことで、共にいじめや差別をなくしていくこととする仲間が増えていくと信じています。

苦しいときやくじけそうなときも、「勇気こそ勝利」という言葉を忘れずに、胸をはって生きていきたいです。

お問い合わせは
人権広報委員会
880・6569、まで